

どこの街、どこの街？

左の写真は、南九州市に関係のある街の写真です。皆さんどこの街かわかりますか？



①花と水とホタルの里として親しまれています。名水百選「清水川」があり、「ようかん」でも有名です



②りんごと米の栽培が盛んです。最近ではアニメ「借りぐらしのアリエッティ」の参考風景となった「盛美園」が人気急上昇中です



③日本有数の工業地帯を形成しています。最近では「焼きカレー」発祥でも有名です

交流から始まるもの

本市では、3つの都市と交流協定を締結しています。旧町のときから交流を継続してきた小城市や平川市、新市が発足してから交流を始めた北九州市です。協定を締結した主な目的は、相協力して交流を進め、ともに発展すること。これまで、この交流をもとにイベントが開催されるにいたったものがある一方、新たな交流で、より充実が期待されるものもあります。互いの産業や文化を知り、触れ合うことで広がる双方の発展とさすな。今回は、それぞれの友好・姉妹都市の特色を紹介しながら、交流の様子を追っていきます。

友好・姉妹都市とは？

友好都市、姉妹都市とも、親善と文化交流を目的として特別に提携をした都市の結びつきのことをいいます。「姉妹都市」という呼び方では、どちらが姉でどちらが妹か上下関係が生じるといふ議論もあつたりすることから、「友好都市」という表現が用いられる場合があります。姉妹都市（友好都市）を提携している都市としては、提携のきっかけが

あり、それは、産業や自然環境、文化など共通点あるいは交流の歴史を要因とするものがあります。

どこの街の正解は

- ①は佐賀県の小城市。旧知覧町時代、平成4年に協定を結び、これまで交流を続けてきました。
- ②は青森県の平川市。平成8年から知覧町でねぶたが運行、今や夏の風物詩として定着しています。
- ③は福岡県の北九州市。南九州市誕生により、その「北」と「南」の市名が縁となって交流が開始、今後の大きな発展に期待がかかります。

まずは興味を持てよう

次の表を見ればわかるように、市の規模・特徴・交流のきっかけなどは様々です。先にも書いていますが、交流の目的は、互いの文化、産業を知り、協力することで、ともに発展することです。まず、それぞれに興味を持ち、互いを知ることで、その後につづく、文化、産業の発展につながっていくことへと期待が持てます。

交流都市	小城市 (佐賀県)	平川市 (青森県)	北九州市 (福岡県)
面積	95.85km ²	345.81km ²	487.88km ²
人口 (H22.6.1 現在)	45,255 人	33,802 人	981,453 人
協定・盟約名	友好姉妹都市 提携協定	友好親善交流盟約	南九州市・ 北九州市交流協定
締結年月日	H20.11.4	H20.8.3	H20.7.31

※南九州市 357.85km², 40,383人 (H22.6.1現在)



	小城市	平川市	北九州市
市の特徴	小城市は佐賀県のほぼ中央に位置。風情ある町並みを残す九州の小京都。そして、花と水とホタルの里として親しまれています。小城市には、昭和の名水百選に選ばれた「清水川」があり、本市にも同じ名が付く名水百選「清水の湧水」があります。産業では、有明海の干拓地が広がり、海苔などの海産物のほか、みかんの生産が盛んです。また「小城ようかん」は銘菓として有名です。	平川市は青森県の南部に位置。市の総面積の7割が山林で、豊かな自然と温泉に恵まれ、国指定の名勝などの文化財が残るまちです。基幹産業は農業で、主要な農作物はりんごと米です。市の花には、「りんごの花」が選ばれています。ねぶた祭りは8月の2日間にわたり開催され、20数台のねぶたが運行、最後尾には、高さ11m、幅9.2mの「世界一の扇ねぶた」が出陣、祭りを飾ります。	北九州市は開閉海峡に面し、九州島最北端に位置。1963年に5市の新設合併により誕生した政令都市です。市の花は、本市と同じくヒマワリです。産業は、八幡製鉄所を発端に北九州工業地帯を形成しており、工業は今でも重要な産業となっています。焼きうどんなど焼きカレーなどの発祥の地であり、観光スポットでは、スペースワールドや門司港レトロなどがあります。
きっかけ	平成元年、小城町議会委員が行政視察に訪れた際、特攻平和会館で宮川三郎軍曹と一匹の蛍の悲話を聞いたこと、また、旧知覧町が蛍の里づくりを計画してゲンジボタルを探していることをきっかけとして、交流が始まりました。ホタル飼育の研修やイベント出展などを経て、平成4年に、小城町と知覧町が協定を結びました。	旧平賀町（現平川市）が計画した青少年国内派遣を知覧町が受け入れたのをきっかけとして、平成3年から青少年の相互訪問が始まりました。このとき訪問した高校生の案により、平成8年、知覧町でねぶたが運行、以来、継続的に開催されています。約10年が経過した平成12年、継続を願って両町で提携を結びました。	ともに「九州」が付く市名であることが縁となっています。平成19年の本市発足時、北九州市長から本市誕生を祝うメッセージが届きました。その後、九州新幹線の全線開通を見据え、「北」「南」のネットワークづくりを目的として、平成20年に協定を締結しました。
事業内容	○イベント出演 (H21) 牛津産業まつり …薩南工業高校・穎娃高校の吹奏楽部35人が演奏。 (H22) 磨崖仏まつり …小城市の「三日月龍王浮立」40人程による民俗芸能を予定。 ○小城ほたるウォークへの参加 史跡を巡るウォーキング大会で、民間レベルでの行き来があります。 ○出展 小京都ふるさと祭	○ねぶた祭りin知覧 6基のねぶたが運行されます。毎年、平川市からねぶたの絵が贈られるほか、当日も30人ほどが囃子・踊りに参加します。 ○青少年相互交流 夏休み・冬休みを利用して10人ほどの子どもたちが相互に訪問、ホームステイを行います。 ○出展 小京都ふるさと祭、川辺・知覧二日市	○子ども交流 夏休み・冬休みを利用して30人ほどの子どもたちが相互に訪問、両市の豊かな自然や歴史、産業を学びます。 ○職員人事交流 両市から互いに1人ずつ職員の派遣を行います。期間は約2年間。 ○出展 小京都ふるさと祭、南九州市のうまいものと観光フェア、北九州市農林水産まつり

記憶に残る子ども交流

子どもの頃、知らない土地で、知らない人と遊んだことは、ずっとその子の記憶に想い出として残ることでしょう。その記憶は、何らかの縁を呼び起こすかもしれません。

大人になり、その地名を聞いただけでよみがえる記憶。

そして、そこから始まる、新たな交流があるかもしれません。

今の子ども交流 (平川市・北九州市)

現在、南九州市では、平川市と北九州市の子どもを相互に受け入れる事業を行っています。

平川市との交流では、7月の夏休みに平川市から10人ほどの子どもをホームステイで受け入れ、逆に12月の冬休みには、本市から10人ほどの子どもを平川市へホームステイさせます。

また今年から新たに始まった、北九州市との交流では、今回30人ほどの子どもを本市で受け入れました。来年は本市の子どもが北九州市を訪問する予定です。

今年実施された交流の様子は次をご覧ください。



▲2日目で南九州市の子どもたちは終了。南九州市から海江田紗貴さん（川辺中1年生）、北九州市から宮園ゆりあさん（曾根小6年生）がお礼と別れを惜しむあいさつをしました。それぞれが思い出として深く記憶に刻んだことでしょう

最終日・7月30日(金)

最終日の朝も雨がばらついていましたが、9時前に知覧特攻平和会館に着いたときには夏の日差しが降りそそいでいました。

館内で特攻隊に関する講義を受けた後、子どもたちは兵士たちが残した手紙やその他の展示物を見学し、戦争と平和について学びました。


すべての活動を終えた子どもたちは知覧文化会館に移動して、10時30分から閉会式となりました。

子どもたちを代表して山田楓華さん（折尾西小6年生）がお礼の言葉を述べました。

その後、記念撮影をし、昼食を食べてから12時に南九州市を後に。3日間の交流事業がすべて終了です。

お礼の言葉（北九州市折尾西小学校6年 山田楓華さん）

私は茶摘みが一番印象に残りました。手で葉を摘むときは、一枚ずつ葉だけ摘むのかと思っていました。茎と一緒に摘むと聞いてびっくりしました。また、手で摘むのは、機械で摘むよりも時間もかかりました。しかし手で摘むほうが3枚目の葉まできれいに摘めました！お茶摘みは初めてだったので、とてもよい経験ができました。



異なる文化、風土、気候、食事を体験。それぞれの良さを感じることができました。

～平川市青少年国内派遣事業～

7月23日から26日の3泊4日の日程で、青森県平川市から男女7人の生徒を受け入れました。

この事業は平成3年に旧平賀町（現平川市）からの青少年交流を旧知覧町が受け入れたのがきっかけです。

初日の23日は朝8時に平川市を出発、夕方5時に受入式を終えると、ホームステイ先でそれぞれ宿泊しました。

2日目の24日は、知覧特攻平和会館を見学した後、頼娃のアグリランドでお茶の手もみ体験。昼食は指宿市開闢の唐船峡でそうめん流しに舌つづみをうち、午後からは知覧B&G海洋センターの艇庫前でマリンスポーツを体験しました。

3日目の25日は、知覧町のさくら館で引率者を含めての交流会を開催、家族ぐるみの交流を一段と深めました。

26日は、いよいよお別れの最終日です。朝8時半にはさくら館前でお別れ式となりました。記念写真を撮ると、それぞれが名残を惜しみ、しばしのお別れを告げる光景が見られました。

今回は12月の冬休みに、平川市へ南九州市の生徒が派遣される予定です。




▲交流日初日の1枚、最前列の生徒が平川市、2列目が南九州市です

南国 南九州市で学んだこと（弘前高校2年 平山千尋さん、一部抜粋）

最も心に残ったのは、知覧特攻平和会館を訪れたことです。涙がこみあげたり、震えを感じながらの見学となりました。ホームステイ先の取違乃愛さんとは、3年前の冬に受け入れをした際には、言葉にならない程、嬉しかったです。

鹿児島の名所、名産、鹿児島弁と沢山沢山教えていただきました。青森とは違う文化や風土、気候や食事（醤油、味噌は青森より甘かった）を体験し、南九州市の良さを知り、また平川の良さも改めて感じることができました。



▲平山さん（左）取違さん（右）

「はじめまして」ですが、すっかり仲良くなりました！

～南九州市・北九州市子ども交流事業～

初日・7月28日(水)

梅雨が明けて以来ずっと晴れ間が続いていましたが、残念なことにこの日は雨。

午後2時前に北九州市の子どもたちが川辺・岩屋公園に到着し、歓迎式・対面式を終えると、雨は降り続いていましたが、川遊びに移りました。

午後5時から野外炊飯による夕食のカレーライスづくり。晴れていれば屋外で食事をする予定でしたが、あいにくの天気のため清流の杜ふれあい館の軒下での食事となりました。

食後は北九州市の大学生や高校生のボランティアによるレクリエーション。班に分かれてゲームを行い、子どもたちはいっそう仲良くなっているようでした。



▲歓迎式・対面式では「百万おどり」という北九州市の踊りを南九州市の子どもたちといっしょに踊りました



▲雨にもめげず、子どもたちは川の浅瀬やスライダーループなどで元気に遊びました



▲南九州市は団長の下野真子さん（青戸中3年生）が「交流するのは初めてのなでうれしい」とあいさつ



▲かまどで火をたくことに慣れていないのか、火をおこしたり、火力を調整するのに大苦戦！

2日目・7月29日(木)

翌朝も雨模様でしたが、子どもたちは6時に起床、朝食の後、頼娃の番所鼻自然公園に向かいました。

9時すぎに到着すると、満潮と波浪のため予定していたいかだ乗り体験は中止となりましたが、伊能忠敬が「天下の絶景」と絶賛した番所鼻海岸の景色を眺めました。

昼食は、いせえび荘の広間でいせえびクリームコロッケや地元産の野菜を使ったサラダなどの料理をいただき、その後、夢・風の里アグリランドへ。お茶摘み体験などの後、南九州市の子どもたちはこの日で終了となるため、お別れ式を開催。仲良くなった子どもと連絡先の交換をして、名残惜しそうにお別れをしていました。

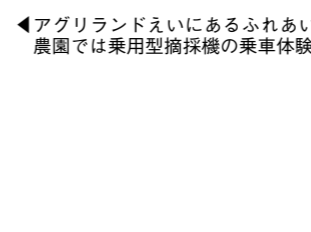
夜は水士利館で星空の講義を受け、就寝。



▲「頼娃おこそ会」の案内でタツノオトコゴハのウスの見学や海岸の散策、海の生き物に関する講義が行われました



▲水士利館でお茶の手揉みも体験！これはけっこう大変でした



▲アグリランドえいにあるふれあい農園では乗用型摘採機の乗車体験